

「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択)中間評価結果

機関名	一橋大学	拠点番号	I09
申請分野	社会科学		
拠点プログラム名称 (英訳名)	現代経済システムの規範的評価と社会的選択 (Normative Evaluation and Social Choice of Contemporary Economic Systems)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野: 経済学〉(経済理論)(経済制度)(国際経済学)(産業組織論)(公共経済学)		
専攻等名	経済学研究科応用経済専攻、経済学研究科経済理論・経済統計専攻、 経済学研究科比較経済・地域開発専攻、経済研究所		
事業推進担当者	(拠点リーダー名)	鈴木 興太郎 教授	他 16名

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成17年4月現在)を抜粋

<p><本拠点がカバーする学問分野について> この計画は(1)社会的選択理論と厚生経済学、(2)規範的評価の経済思想と学説、(3)国際経済学、(4)国際金融論、(5)産業組織論、(6)企業経済論、(7)比較経済制度、(8)公共経済学、の諸学問分野をカバーしている。基幹研究者は分野横断的に活動して、研究の有機的な連携に努めている。</p>
<p><本拠点の目的> 研究・教育計画の中核にある経済システムは、ひとびとの経済活動を制約する制度とルールと体系であるとともに、ひとびとの福祉の実現メカニズムでもある。それだけに、経済システムを分析する方法としては、現実の経済システムの構造と機能を実証的・事実解明的に研究する方法と、望ましい経済システムの在り方を構想して、その設計と実装を規範的に研究する方法の、2つの方法が認められる。われわれの拠点形成計画は、これら2つの方法を複眼的に用いて、経済システムの精密な事実解明に根差した批判的評価を積み上げる一方では、伝統的な厚生経済学の狭隘な厚生哲学を脱皮して、新たな福祉概念の再構成を計ったうえで、国民の福祉の向上に寄与する経済システムの設計と実装のための経済政策を構想できる研究者・エコノミストを養成することと、拠点形成計画の終了後も自立して先端研究を生み出せる研究基地を創設することを目的としている。</p>
<p><計画：当初目的に対する進捗状況等> 拠点形成計画の発足後、各研究班は従来からの国際的研究ネットワークを大幅に強化して、経済システム分析のアジアにおけるハブの形成に努めるとともに、従来の一橋大学では構想すら困難であった新たな国際共同研究の立ち上げに精力的に取り組んで、多くの成果を挙げている。その過程では、COE/RES Discussion Paper Seriesに活発に報告される新たな研究成果も数多く誕生して、その一部は既にレフェリー制度の国際的研究誌に公開されたり、アクセプトされて公開を待つ段階に到っている。若手研究者の育成計画も順調な軌道を歩んでいる。国際的な共同研究のために開催されるConferenceやSymposiumには大学院生やPDも積極的に関与する仕組みになっていて、先端的な研究の場を体験できる機会が大幅に充実した。また、招聘研究者のうちには、われわれの依頼によって公開講演や連続公開講義を引き受けて、拠点形成計画の一端を担う人々もいる。さらに、若手研究者の研究環境もTA、RAや研究助成によって飛躍的に改善され、研究成果も充実の一途を辿っている。彼らの中には博士論文を提出する用意が整っているものも数多い。このように、計画は当初目的に沿って順調に進展している。</p>
<p><本拠点の特色> 社会的選択の理論は経済システムの評価と設計の基礎理論だが、しばしば白紙に絵を描くように現実と遊離した理論であるかに誤解されている。また、現実の経済システムの緻密な実証的研究は、その没理論性を批判されることがある。われわれの拠点形成計画は、構成的秩序の自生的進化との整合性を重視して、理論的研究と実証的研究との双方向的な連携に留意して、複眼的に推進される点に特色をもっている。この連携を実践する楔として、拠点代表者をはじめとする基幹研究者はB班、C(2)班、C(3)班のいずれにも所属して、規範的経済理論、競争政策、福祉政策に関する研究を推進している。</p>
<p><本拠点のCOEとしての重要性・発展性> この拠点形成計画の柱となる社会的選択理論と厚生経済学、規範的評価の経済思想と学説、国際経済学、国際金融論、産業組織論、企業経済論、比較経済制度、公共経済学のいずれの学問分野においても、一橋大学は長い伝統を築き上げてきているが、これらの伝統を一貫した計画のもとに位置付けて、研究・教育プログラムとして世界的な拠点形成を目指す点に、この計画の重要性がある。国際的研究ネットワークのアジアにおけるハブとして発展する可能性は、大きく開かれている。また、21世紀日本の経済システムの設計と実装、グローバル化の進行のなかで確かな学問的基礎に立脚した政策立案・評価・批判能力の育成に対する社会的ニーズは強く、形成される拠点が将来さらに発展することへの社会的期待はきわめて高い。</p>
<p><本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果> 本計画の終了後に期待される成果は、基本的に3つある。第1に、一橋大学には経済システム研究の国際的拠点としての知的資産が残されて、将来も国際的研究・教育ネットワークのハブとして機能する基礎が形成されているはずである。第2に、計画の進行過程で一橋大学から国際的な研究者として飛翔した若手研究者たちは、将来も継続的に研究・教育活動に貢献して、この分野における日本のプレゼンスを高めることに貢献することになるはずである。第3に、日本の経済システムの設計と実装の理論的基礎と政策立案・評価・批判能力を身に付けた研究者たちは、将来も日本の公共的意思決定過程の健全な成熟に貢献する人材となるはずである。</p>
<p><本拠点における学術的・社会的意義等> 本計画の学術的意義は、社会的選択の理論と厚生経済学に対する世界的・先端的な研究拠点をアジアに形成して、新たな研究の継続的な発信基地とすること、自生的進化と整合的なシステム設計という本計画の着眼点を生かした新たな研究視角を国際的に定着させること、国際経済システム・企業経済システム・公共経済システムの重層構造として経済システムを多面的・複眼的に捉えるアプローチを国際的に普及させること、そしてこれらの活動の全体を通じて、先端的な若手研究者の養成システムを確立することに求められる。本計画の社会的意義として特記すべき点は、21世紀の日本の経済システムの制度設計とその実装、そして経済政策の整合的な立案・理性的な評価・建設的な批判の能力を身に付けた人材を養成するとともに、本計画の研究成果を踏まえた整合的な政策提言の作成をあげることができる。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(総括評価) 当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。</p>
<p>(コメント) 経済学においての実証分析と規範分析とが分断されている現状では、当拠点のプログラムは、極めて適切なテーマ設定を行っている。これまでの活動から判断すると、研究活動に関しては、十分に期待できると考えられる。特に、国際的な共同研究のために開催されるカンファレンスやシンポジウムには大学院生やPDも積極的に関与する仕組みになっていて、先端的な研究の場を体験できる機会が大幅に充実した事は、評価できる。 ただし、有機的連携と人材育成に関しては、努力が望まれる。リーダーの優れた学問的業績と、他のメンバーの実際政策研究をどう結びつけるのかという点にも注意を払い、いずれのサブシステムでも優れた研究成果が出るよう連携に務められたい。 さらに、人材育成に関しては、博士授与数が低迷しており、教育プログラムのさらなる改善を行い、その成果として学位授与が増加することを期待したい。</p>